



Story of their Success

志望校・学部を決めた時期と決め手は？

山本： 家から通いたいと思っていて、通える国公立と考えたらだいぶ絞られていました。そこからいろいろ調べて、高1の頃から大阪公立が良いかなと。最初は法学部志望だったんですけど、将来どういう仕事がしたいかを考えたら地域活性化とか"まちづくり"に関わりたかなと思って。そしたら経済学部の方がいいかなと思って決めました。

小林： 海洋生物資源学科に決めた時期は、高3の9月です。高1の頃は何も決まっていなかったんですけど、学校でWeb上のオープンキャンパスに参加する授業があって、3校くらい選んだうちの1つが水産系で。そこでもう"これは楽しい"ってなりました。それが高1の後半。志望校は、高3になって苦手科目も得意科目もだいぶはっきりするようになってきた頃に、自分の学力と家のこととか考えた時に3校くらいに絞られて。最終的に夏休み終わって、今の学力だったら東京海洋かなって決めました。もともと熱帯魚とか淡水魚が好きだったんですけど、高1の初めは趣味の範囲から出ていなくて。水産系のオープンキャンパスを見て、養殖産業とかに関わりたかなという気持ちになりました。

山本君は、推薦をチャレンジしようと思った理由は？

山本： 二次試験が回避できるのと、勉強以外のことも評価してもらえるというのが大きかったです。科学部の活動を自分の長所として活かせる入試だなと。面接や小論文も必要だったらちょっと考えたかもしれないけど、共通テストと活動報告書で結果が出たので。

部活と勉強の両立で工夫していたことを教えてください。

小林： 登山部は文武両道がはっきりしていて。平日1~2時間練習して、休日はフリー。大会や遠征前はがっつり部活をする時期もあったけど、高1の頃から部活も勉強も同じくらい頑張っていたかなと思います。

山本： 科学部もすごく自由な部活だったので、平日は塾と両立できたし、土日でも遠征行く以外はフリー。だから高1の時から土曜もアカデミーに来て自習してたかな。高2の大会前だけは時間が足りなくて、アカデミーに缶サットの準備を持ち込んでやるくらいきつかったけど、他の時期は両立できてたと思います。引退も早かったし。

小林： 僕は引退は高3のお盆くらいだった。でも高3の春はほぼ勉強にウェイトを置いていました。部活もするけど早めに切り上げて。最後の大会前はがっつり部活でした。でも楽しかったの、割り切ってインターハイに行きました。北海道に1週間。終わってから勉強に切り替えられたし、行ってよかったって思います。

しんどかったこと、それをどうやって乗り切ったかを教えてください。

山本： そんなにないですけど...共通テストが終わって二次対策をしていたあたりですかね。二次はマーク式じゃないから、やってもやっても伸びている感じがなくて。推薦で無理なら本当に二次で戦えるのか、本当に大丈夫かなって。乗り越えたというよりも推薦で受かって回避した感じです。推薦出せて良かったです。渋谷先生が紹介してくれていなかった



進学先

東京海洋大学
海洋生命科学部

小林 虎太郎さん

桐蔭高校
登山部



進学先

大阪公立大学
経済学部

山本 瑞起さん

桐蔭高校
科学部 部長

インタビュアー

渋谷勇太
(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

たらたぶん推薦のことに気づいてなかったの
で、本当にありがたかった。

小林：僕が一番きつかったのは、高3の5～6月頃
です。勉強しているのに伸びないとか、下がっ
たとかがあって。特に英語。1カ月ぐらいメン
タル落ちちゃって。学校も休みがちに。一人で
図書室で勉強したり、電車乗って海に行ったり
(笑)。そんなこともあったんですけど6月
半ばぐらいに急に吹っ切れて。"あ、なんかも
ういいや。苦手なんだから仕方がない"と割り
切れるようになって(笑)。そこから勉強する
ことも苦じゃなくなったというか。無理なも
のは無理だから。それまでは分からない問題
があったらどうにか頑張っって解こうとしてき
てたんですけど、その時期からは"分からない
なら答えを見ればいいや"って。答えを見て、
"あ、そういうことか"っていうのをメモして、
2周目で分かればいいやってなって。そこ
からはもう引きずらずにスッと抜けた感じで。
インターハイですごくいい経験もして、8月
以降は何もしんどくないって感じです。共テ
前とかみんなすごい緊張してるって言ってた
けど、全然緊張しなくて。謎の自信がありまし
た。

山本：なんかよく休んでた時期あったもんな。良
かったな、吹っ切れて。

大学に入ってからどんなことをし たいと思っていますか？

小林：飲食関係で接客のバイトがしたいです。姉が
バイトしていて接客が上手いのですごいなと
思って。あと運転免許も取りたい。勉強関連で
は、いっぱい実習がしたいです。フィールド
ワーク。大学が4学期制で夏休みが8月中旬か
ら10月いっぱいなので、友だちと一緒に全国
の川とか海を巡りたいです。冬にお金を貯め
て、夏に巡るみたいな感じで。

山本：僕は和歌山に残るので、高校の缶サットの手
伝いも呼ばれるので行きたいなと。でもまた
自分でも缶サットをやりたいですね。大学に
は無いけど、基板とかプログラムに詳しい人
を集めてやってみたいなっていうのがありま
す。串本もまた行きたいし。虎太郎みたいに日
本中もまわりたいです。僕は川を見るんじ
ゃなくて、まちづくりを見たい。いろんなところ
を見てみたいですね。あと写真部にも興味
がある。

中学生部GESからACに継続して くれました。

山本：GESとアカデミーどっちもですけど、常に褒
めてくれるみたいな感じで。"否定して伸ば
す""発破をかける"みたいな塾も多いって聞
くんですけど、僕はそういうのが好きじゃな
くて。やっぱり褒められる方がいいじゃない
ですか(笑)。でもGESの頃から英語は居残り
で鍛えられていて良かったです(笑)。送迎し
てくれた両親に感謝してます。それに慣れて
いたからアカデミーの『EQ(英語特別講座)』は
特に怖くありません。

小林：ACのクラスライブでは、数学で革命が起きま
した。すごく楽しくて。あれは…神。

山本：うん。あれを3年間受けられたのは良かった。
僕は文系だけど『ハイレベル数学』で頑張
って、最後「二次でも数学使える」みたい
に言ってもらって。

小林：逆に僕は英語はなかなかきつかったけど、吉
田先生だからなんとかなった。高校受験前
のGESの特訓で吉田先生の授業を受けて、ア
カデミーもターミナル校で吉田先生の授業
って決めまし。

山本：高校英語になると英語の捉え方みたいなの
が変わるしな。僕もそれに対応するのにち
ょと時間を取られて。スタートを出遅れた
けど、共通テストの解き方は吉田先生がき
っちり教えてくれたから高3の6月くら
いから高得点をキープできるようになっ
て。本当に吉田先生に感謝しかない。リー
ディングもそうだけど、リスニングも本番
で9割取れて。本当に感謝してます。

小林：あと、長沼先生の古文！あれは楽しかった。

山本：あ、古文楽しかった！

小林：長沼先生の授業で楽しくなって、共テ本番で
だいぶ取れた。

山本：文系の人よりだいぶ高い点数だったよな。

小林：楽しかったから。ロジックとかも教えてくれ
て、いっぱい話もしてくれて。自分が勉強
している感がすごい強くて。分かるよう
になってからが国語の本番って感じで。慣
れてきたら余裕も出てきて。忘れていた
けど"本を読む楽しさ"みたいなのも思
い出しました。

山本：二人で一番前の席で受けてたもんな。

小林：僕は、やっぱりライブ授業が合っていたと思
う。先生と話ができてモチベーションがあ
がるので。

山本：僕は『サテライン』の日本史、すっごく楽し
かった。夏期講習の文化史の熱の入りっ
ぱりがすごくて。日本史が好きで分か
っているよって人にもおススメ。苦手な
人も自然についていけると思うけど。

小林：あと、ネット出願でも渋谷先生にだいぶお世
話になった。英検[®]が中学生の時の
でいいのかわからなくて。それが使
えたから良かったんですけど。無
かったら出願できなかった(笑)。英
語を二次で使わない代わりに英検[®]
が必要だったから。英検[®]は取
っておいた方がいい。

頑張っている後輩へのメッセージ をお願いします。

小林：英語はとにかく合間の時間でも勉強してお
いた方がいいと思います。5分しか
なくても単語を見ることはできるので。僕
は苦手だったので疎かにしていたところ
があったんですけど、高3になってから
は少しの時間でも単語帳を開くのを
続けていたら良くなったので。これ
を高1から続けていたらもっと伸び
たんじゃないかなと。あとは、割り
切りが大事。苦手科目とか得意科目
があるのは当たり前なので、それを
どうやっていくか。僕の場合、苦
手科目ばかりやっていて、うわー
ってなったら、得意科目で落ち着
いて。メンタル回復したらもう一
回苦手科目に向き合って。そんな
勉強法ですすめてました。そうい
う風に自分の勉強法を見つけられ
たらいいなと思います。あとは、
高1から推薦を意識しておくのも
いいかなと。後から気づいても
出せなかったりするので。高1
高2だからって受験勉強が始
まっていないわけではなくて、
その頃から頑張っておけば結果
で返ってくると思う。

山本：僕は早めに終わる部活だったけど、やっぱり
部活は最後まで頑張っしてほしいな
って思います。入試も含めて絶対
プラスになるから。勉強の方も、
最後までやり抜けばもう絶対
なんとかなるので、腐らずに、
めげずに最後まで頑張っ
てほしいなと。あと、日本史は、
文系でも絶対に共通テスト
までに学校で全範囲が終
わらないので『サテライン』
を受けておいた方がいい
と思います。サテラインは
高2の半ばぐらいから受
けて、丸1年で全範囲が
終わったので、だいぶ助
かった。

小林：あと、先生にいっぱい相談すること。僕は
渋谷先生とか岡先生と、いろいろ話を
しました。授業後も教科の先生に
質問に行っって。塾の授業
後に帰っって勉強っってな
るときついで。その日の
授業内容はその日にす
っきりさせておく。

山本：先生だけじゃなくて相談相手
を確保しておくのも大事
よな。一緒に勉強できる
仲間ってまじで大切だ
と思います。常にべつ
たりでいる必要もない
と思うんですけど。たま
に一緒に勉強しに行く
とか、一緒に昼休憩とか。
それだけでだいぶ違
うと思う。いつか山下
代表が"偏差値は個人
戦・受験は団体戦"っ
て仰ったのが、本当
にそうやなって感じ
しました。

編集後記 ～インタビューを終えて～



山本君は文系ながら科学部缶サット班部長という異色の
経歴でした。文系でもハイレベル数学で頑張り、二次試
験でも数学は大丈夫と担当の先生に太鼓判を押された
ほどでした。対談では、部活は大会前くらいしか忙し
くなかったとサラッと書いていましたが、ロケット制作・
プレゼン資料作り・練習と我々では想像できない苦
労があったと思います。ぜひ大学生になっても桐蔭
高校科学部OBとして後輩育成をして欲しいと思
います。

小林君は自宅で熱帯魚を飼育しており、1年生の間は
頻りにペットショップに通ってました。「熱帯魚が
好きなので、水産とかかな～」位の話はずっと
していましたが、色々な大学学部を調べ現地の
オープンキャンパスなどにも参加し、その方面
に進むことを決めました。3年になったときは
精神的に辛い時期もあったと話してきていま
しが、吹っ切れてからは模試でも得点が安定
し、本番でも目標とする点数より高い点数
を見事に勝ち取りました。

2人とも部活は部活、勉強は勉強と、切り替
えることが上手でした。またACからの提
案(勉強方法など)に対して素直に受け止
めてくれ、愚直にやり抜いてくれました。
やりたいことが具体的に決まっている2
人ですので実現に向け、充実した4年
間を送って貰いたいです。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 渋谷勇太